

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

「火山防災の日」について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2026 年 7 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。

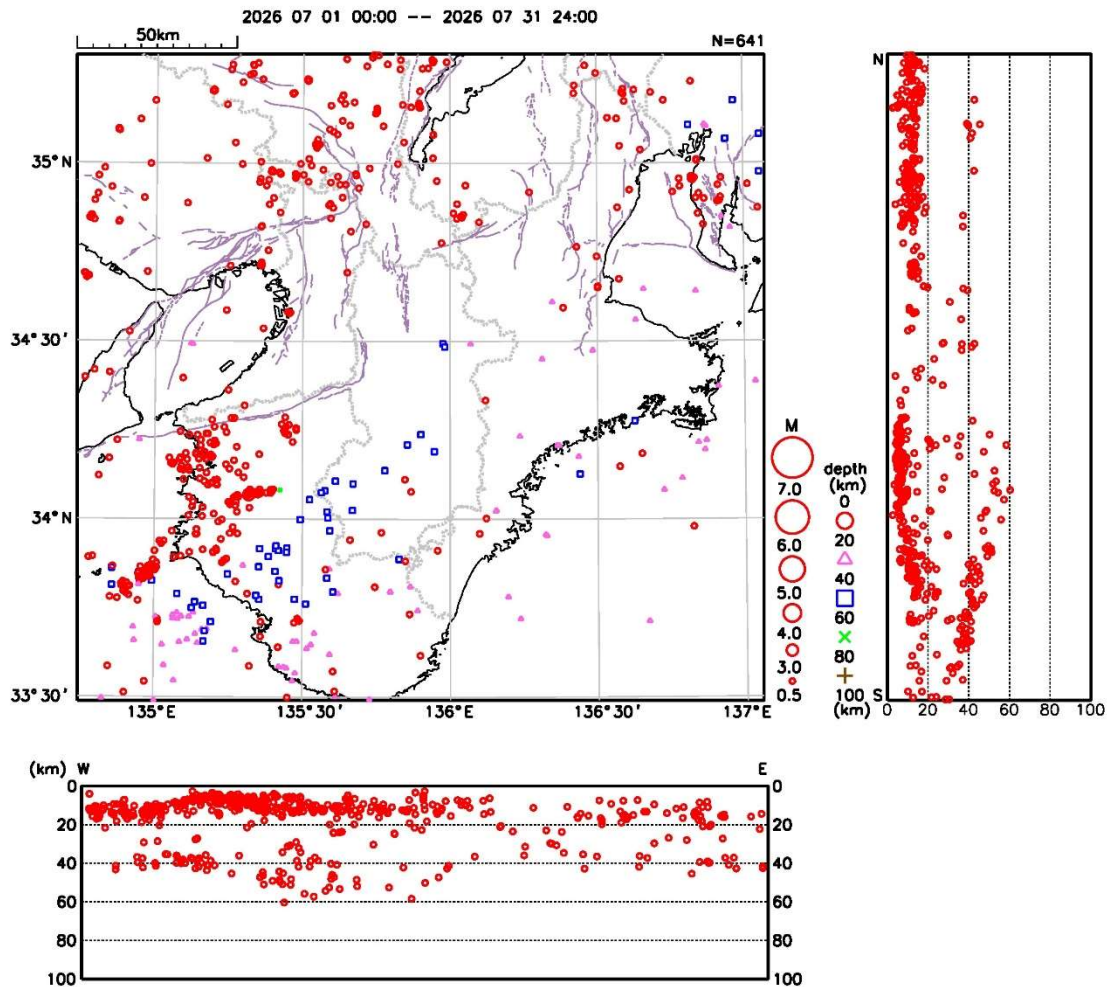
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>



【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

9日 21 時 58 分 和歌山県南方沖の地震（深さ 25km、M4.7；震央分布図地図範囲外）により、奈良県内では、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、香芝市、葛城市、宇陀市、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、広陵町、吉野町、大淀町、明日香村、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、川上村で震度 1 を観測しました。

28日 16 時 27 分 熊本県熊本地方の地震（深さ 16km、M7.1；震央分布図地図範囲外）により、奈良県内では、奈良市、大和郡山市、天理市、葛城市、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、広陵町で震度 1 を観測しました。

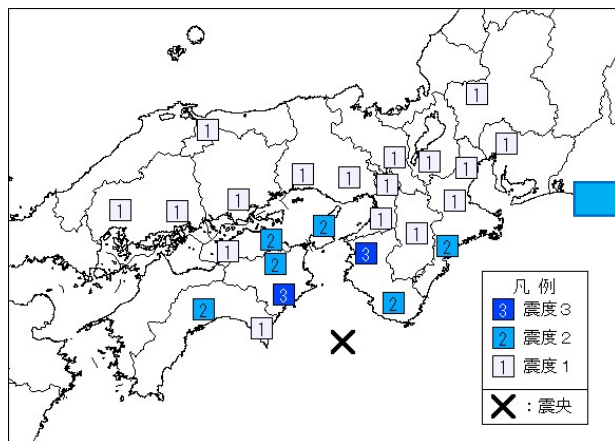
【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2026 年 07 月 09 日 21 時 58 分	和歌山県南方沖	33° 17.8' N	135° 02.9' E	25km	M4.7
震度 1：大和高田市野口＊、大和高田市大中＊、大和郡山市北郡山町＊、天理市川原城町＊、橿原市八木町＊、桜井市初瀬、桜井市栗殿＊、五條市岡口＊、御所市役所＊、香芝市本町＊、安堵町東安堵＊、奈良川西町結崎＊、三宅町伴堂＊、田原本町役場＊、高取町観覚寺＊、明日香村橘＊、広陵町南郷＊、吉野町上市＊、大淀町桧垣本、黒滝村寺戸＊、天川村洞川、天川村沢谷＊、野迫川村北股＊、十津川村小原＊、下北山村寺垣内＊、奈良川上村迫＊、葛城市柿本＊、宇陀市大宇陀迫間＊					
2026 年 07 月 28 日 16 時 27 分	熊本県熊本地方	32° 37.5' N	130° 40.7' E	16km	M7.1
震度 1：奈良市西紀寺町、奈良市二条大路南＊、大和郡山市北郡山町＊、天理市川原城町＊、安堵町東安堵＊、奈良川西町結崎＊、三宅町伴堂＊、田原本町役場＊、広陵町南郷＊、葛城市柿本＊					

* 印は地方公共団体等の震度観測点です

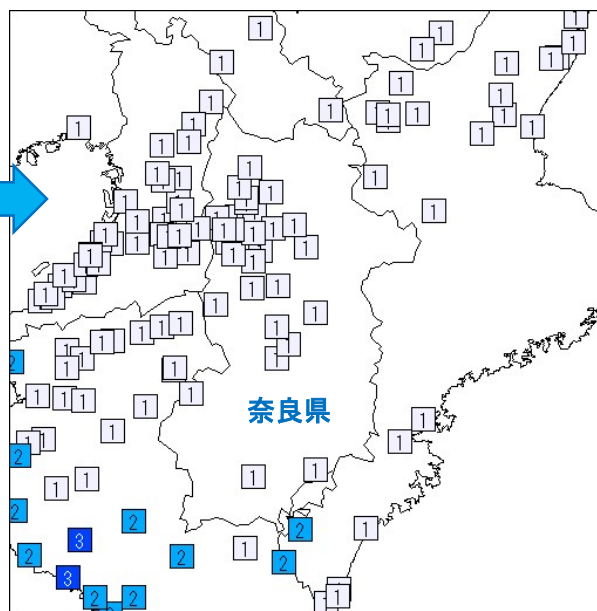
【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布】

2026 年 07 月 09 日 21 時 58 分 和歌山県南方沖 33° 17.8' N 135° 02.9' E 25km M4.7



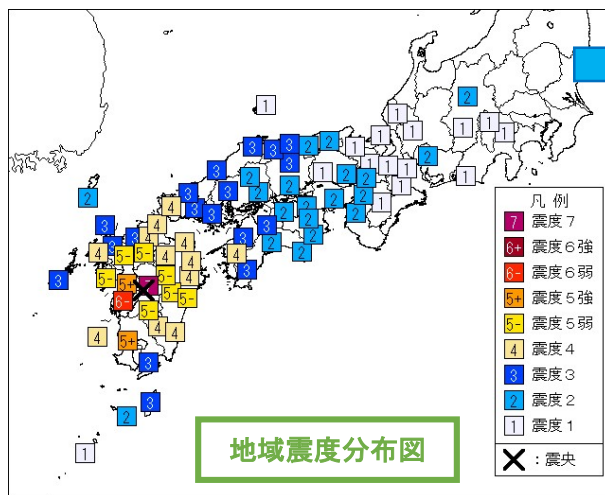
地域震度分布図

奈良県付近を拡大



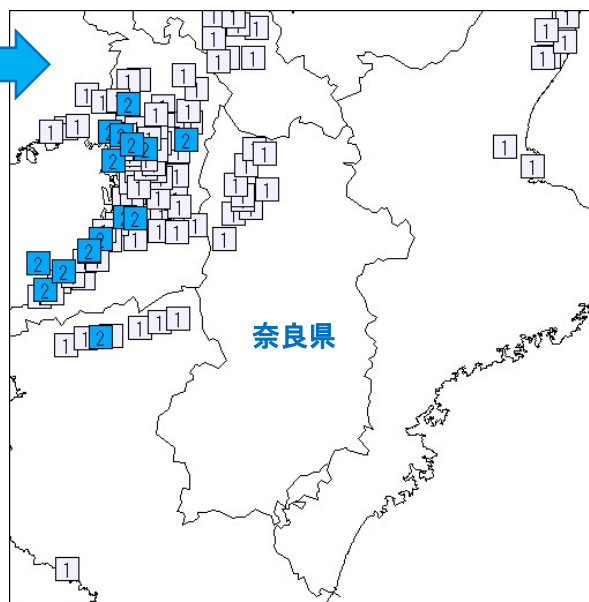
観測点震度分布図

2026 年 07 月 28 日 16 時 27 分 熊本県熊本地方 32° 37.5' N 130° 40.7' E 16km M7.1



地域震度分布図

奈良県付近を拡大



観測点震度分布図

【地震一口メモ】

「火山防災の日」について

令和5年（2023年）、活動火山対策特別措置法（活火山法）の一部が改正され、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、8月26日を「火山防災の日」に制定しました。明治44年8月26日に浅間山に日本で最初の火山観測所が設置され、器械を用いた近代的な観測が始まったことに由来します。火山防災の日には防災訓練等、その趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めることとされています。

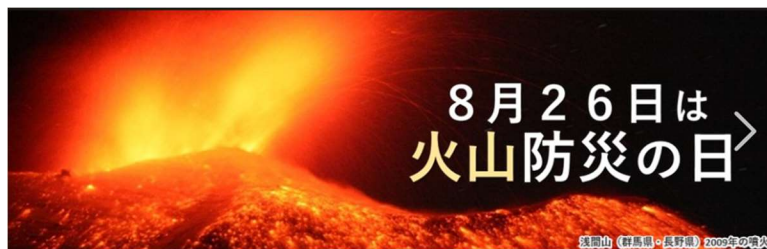


https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/kazanbosai/02_shoukai.html

「火山防災の日」とは？ 浅間山の火山観測の歴史

https://www.bousai.go.jp/kazan/kazan_houritsu/r5_kaisei.html

「令和5年の活火山法の改正内容について（内閣府防災のページ）」



火山防災

火山防災は、火山で起きる現象が人々の暮らしや命に被害を与えることを防ぐことです。

火山が噴火すると、例えば「火砕流」（かさいりゅう）という、時として数百℃にもなる火山灰や溶岩のかけらが火山ガスと一緒に斜面を高速で流下することがあります。また、熱い溶岩の大きなかけら（大きな噴石）が遠くまで飛散したり、降り積もった火山灰を含む大量の泥水が山を下って遠くまで押し寄せたりします。

火山で日々起きる現象は必ずしも、常に被害を与えるわけではありませんが、それが通常より活発になった場合は被害を防ぐための行動をとらなければなりません。

火山災害から身を守るために

火山災害は、噴火等の現象が発生してから被害を与えるまでの時間が非常に短く、起きてから調べて行動するのでは間に合いません。火山災害から身を守る上で大切なことは「安全な場所にいる」ことです。

自然現象は止めることができないため、「安全な場所にいる」ためには自ら選んで行動する必要があります。「どこが安全で、どこが危ないか」「危ない時はどういう時か」「危ない時の情報を入手する方法」「危ない時にとるべき行動」を事前に知っておき、実際に行動できるようにしておく必要があります。

1. 「火山防災マップ」を見て「噴火警戒レベル」に対応する危険な場所を確認する。
2. あらかじめ、避難場所や、そこまでの道順を確認する。
3. 気象庁の発表する「噴火警報」などの情報や「噴火警戒レベル」に注意する。

4. 噴火のおそれがある場合、噴火で危険になる地域では事前避難を行う。地元自治体から指示があった場合はそれに従う。

火山に登山する際には、万が一の噴火に備えて、登山用ヘルメットを持参することをお勧めします。「火山への登山のしおり」や「火山登山者向けの情報提供ページ」も事前にチェックしておいてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/shiori/index.html>
「火山への登山のしおり」



https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/activity_info/index.html
「火山登山者向けの情報提供ページ」



マンガで解説！火山災害への備え

火山現象と対策について、マンガでわかりやすく説明した小冊子です。



https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/sonae_manga/index.html
「マンガで解説！火山災害への備え」